丹鶴叢書

草根集 三

117
105
2

東京圖書館
和書門 叢書類 別ね 函 二架 二號 一〇五冊

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2

ガラス使用

東京帝国大学図書之印

故樋口芳麿納本

枇原家蔵

草根集第三

永享五年正月朔日雨ふりてはるる様なれども

[illegible]

二日[illegible]

[illegible]

三日主上御元服[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

え一本

[illegible]

七日兼祐法師のもとにて春を待ふ

三　春　わかなつむ[illegible]を待ふやあしもとの[illegible]

[illegible]　[illegible]

名所述懷　[illegible]

八日草庵の月[illegible]

立春日　[illegible]

雪消松緑裳　残雪　[illegible]

家都祝　[illegible]

當座　若菜　つむとてかすみのもとの白[illegible]

螢　[illegible]

瑞離　[illegible]

十日右馬頭の家の月[illegible]

砌下有松　[illegible]

靈花　盛　[illegible]

顯　惡　[illegible]

田家　[illegible]

十二日草庵ゟ畠山阿波守同右馬頭山名中務大輔下

堅入道素明同左馬頭尉氏數なと[illegible]

霞滿村　厚本　[illegible]

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2
ガラス使用

江月冷　新月きさらぎ江の月のさゆ冬ふ素くまゝのさゆ秋の世
驛路雪　ふるのゝやたゆたえの松ハ雪なるゝ月もむ梅の色にゆる毋
家の蓬（苔莫）　さゝ屋のかやゝまもゝてゝさゝ人まゝ入て落さ葉ある流
羈中衣　日をつゝ（たゝ一本）旅なる宿をとゝ夜のあさゝあつさものさ衣

廿六日阿波守の家の月ゆゝ

池邊松久　庭ゆゝさ波のゝのちゝ遠ゆ松のやよの年ゆるゝむ
山（當座）春月　ゝゝまゝ嶽ゝ宮も月せくゝれゝ年ゆさものゝ春ゆ
恋久恋　つゝさゝをけゝむ浦のゝ柏なつゝ心ゆさ神ゝゝちゝ
山家橋　ふゝなゝ人ゝをいゝくゝ山ゝもいゝのかゝものまゝの板橋

二月三日草庵の月ゆゝ

梅風　遠をの嶽ゝゝも風ゝゝむゝゝゝゝゝ梅ゝゝゝゝゝゝゝゝ
春月　二月や春の秋さむの雲氷ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ月かけ
近恋　つゝるもゝゝゝ中垣のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
春濱霞（當座）　あらゝゝ波ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ（小莫イ）
冬恋　かゝゝゝゝ人ゝゝあゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ（玄莫イ）
夜釈教　ゝゝゝ秋ハ松ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

十四日十論院の月ゆゝ

旅梅　吹のぼるとの人の松よ波ゝゝ梅風谷のゝる乃河のせ
待花　いゝゝゝゝ人待ゝゝ秋の夏ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
路芝　ゝのゝゝを宮人ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

當座
故郷梅　なつかしき小屋のうしほ火うち風ふ烟まとへハ梅ゝ匂ひそふる

宮廻恋　うき中ハたれもあしゝ廻るまをさきるそうきき

旅泊夢　伊つ母ぢ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ

[illegible]十日[illegible]花をこそ[illegible]

[illegible]

[illegible]たのめてし[illegible]ぬ花の[illegible]

[illegible]をこそ[illegible]

[illegible]

宮藏[illegible]

櫻花[illegible]ぬ[illegible]

大原[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

花の[illegible]

風情[illegible]

以[illegible]

一本此詞書哥共岩藏さく上三ヲリ

[illegible]花[illegible]院[illegible]

[illegible]

[illegible]

十一日[illegible]

宮玉花[illegible]

宮枕花[illegible]

宮琴花　春ハ形花の[illegible]

寄幾花　山陰にまれてのきるもの幾あるもの川風
其氏の波もの子息沼か浦義有小あるふもの百そ
とくもそらるもの弁ふ　社一本

霧

つくとく春のかすかすかすもあ霧そはもあくかる

時鳥

いくそ〜ワもそかくの号やの月もさくぬ山ほもの

霧

多ほくそ〜そ日の沼のうくさや霧よかる物なるう

落葉

ちくまるう嵐の上八狩さえてまる本葉の重ねもむ

忍恋

悔ふたくぬもの浦さくやそ飛そそ延ものの大

述懐

ちくものくなくもちくそ捨とそまくる神の恋八

中務大輔硯屏ふ梅の花ふうくひたる沼ふ梅の上

ふ人のたちくさくるくかくかくふあくの沼ふ
まくふあくくの月の山なのそみえるるふくたるを
梅のくくふ惟宵和尚ふ賛をもさくく詩を
曳杖立槁頭　無風香暗浮　去波如有恨
踈影不随流　あくくの沼のくふ
もくくくくくなのあく後ふ出るくる山のその月
卯月三日草庵月次ふ
首夏　桃くるの月のくみのくあくたくるくふなくのゆふ
待時鳥　ほくくくくくるふ沼ふくくくくくくくの杉せ
憂恋　しくくくくくくくあれくくくくくくく

當座
詠菖蒲　さゝれいはあやめもまがくさゝふの葉さへ光る玉ぬき

山家恋　おくさの里のあかつきもあはれとて人めをるてふ山の陰かな

江　蘆　まこもかる入江の小船延をのうけあてかたもゆる浦系

七日治部少輔八幡宮ゝ百首とて南禁みて中小

立　春　やまぶきの山もさくらの花ちるつる貝鶴や霞ゝ初ら雪

杜　若　さゝなみ寄める沢の杜ゝ色をとるてもむ

蛍　飛蛍光をのよるゝ杜風ゝ陰をのをまて

月　ゝらふ一本　ゝらふて杜やいくをなくさめて光をとてもゝ文級の月

苅　萱　おのつゝゝみたゝのこゝれも野ゝみゆるゝ光をのかるゝ

千　鳥　下おの中四ゝゝ氏をかふもゝ風を寄みよるゝたつなの

おく一本

子規

初　恋　ゝゝ移の袖の露の野居い枕ゝゝ知ゝかけゝよ

松　ゝ居ゝ小屋居ゝゝ家の白雪ゝ月ゝ宮時の松

別　いまゝの志ゝ別もやゝて杜のゝなる家の杜き　白一本

十九日宮ゝ親南ゝ尾ゝゝゝめて来て一清ゝゝ

夏　風　野ゝまて来る山ゝゝとゝゝん家ゝ到家ゝ

夏　木　雨ゝる雲の右のいまゝもゝゝの杜のゝ光ゝ

夏　枕　ゝゝのせゝゝ行ゝの芝むゝ枕ゝ夏ゝゝぬゝ

五月三日右馬允の家ゝく衆議あゝくゝそのお合

せゝ小ゝ男勝負を付侍る

月前時鳥　四ゝる間ゝゝ移のゝゝゝゝ月ゝ

杜五月雨　丹生の川とゝそゝぎる松つゝみのさゝれの石

社頭嵐　山風も黄ばむ紅葉の木末に狂ふゝゝ入りあひの松

名所月　（ホ七日草庵の月次ゝ一本）　檜柱ゝゝ洩やせの月ゝゝ

蛍　玉ゝ上　淀川や洩ゝゝ（ゝ一本）ゝゝ乙の光る船ゝ

古寺嵐　いせゝんかゝるゝゝ松ゝの葉ゝを吹風ゝ（うけ一本）

（當座）海邊霞　ゝゝ雲ゝ霞ゝ春ゝ行ゝ春の海の汐干のむやゝゝ拾ふん

花春友　ゝゝるものゝゝひゝとゝゝ花ゝやゝゝの友ゝゝゝむ

新樹　ゝゝ水ゝゝ木ゝゝ樹のゝゝゝゝかゝゝ風の新しゝゝ

寄風恋　ゝゝ入ゝゝ風ゝゝゝゝゝゝ独ゝれん風のゝゝゝゝせよ

暁山　ゝゝゝゝゝゝゝゝ月の残ゝゝふむゝゝゝの松ゝ新ゝゝ

（ゝ一本）

廿八日人ゝゝゝゝ時鳥ゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

十九日 [illegible] 親 [illegible]

早春霞

夕早苗

田上鳥

庭落葉

浦千鳥

寄草恋

[illegible]

山家嵐

廿五日 草庵の月

夕立風

旅夏衣

初見恋

雲 雀

月

水 鳥

尋恋

山

廿九日清水神護寺にて所をさしてゝ

夕立晴　雲たゝ行きてゝ多くゝ夕立の日新をやきてみ一乃やまの

恨偽恋　いのゝゝるこゝろのつよかゝるこゝろの事葉の変乃おもさうみを

名所瀧　なゝきゝ山瀧のおもゝ名ゝきこゝろ法のちゝ

七月七日織里ゝ

河早秋　なゝ長川やゝ秋ゝ稲ゝ

七夕草　なゝのゝゝふなゝきゝる草とゝやさゝかゝゝの露のむつさ

聖恋　つゝなゝきゝ（き楽）ゝの契ゝまゝせゝゝ又やたゝ

山家　なゝき世とゝ秋ゝふゝゝゝ山ゝ

十二日草庵の月ゝよ

（そ様）

初秋　以風のゝゝゝゝ世のゝゝゝゝ秋ゝゝゝゝむ

薄露　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

述懐　ゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

故郷梅　なゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

江月冷　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

寄境恋　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ（えも様）

同十七日ゝゝ山つ訴訟ゝゝ神恵をふゝゝゝゝ世

中ゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

草庵ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

夕荻　秋の日ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ荻のゝ風

恨絶歟　まくらゐ恨もふるくかよひし跡をそ移ろひ世の常

獨述懷　みのゝ人ゝとゝゝるゝ人ゝもなくて捨てし世をあるもちもん　七四上

廿日東入道素明亭にて一座のしゐ

秋田　夕日さしをの〻山田の穂かたゝくるゝ稲の花のつゆ

忘歟　郭公ゝゝゝ後て待ハぬまるいとゝ井のあ

夕眺望　西の海千日新たるもつる夕波のるゝををたゝのまゝく

閏七月二日中務大輔少将猪熊なる所にて

しゝたゝ五しゝよ拾くゝよゝみおあるしゝ　中一本

都初秋　時をゝく風ゝ秋ゝ物ゝる秋のやとゝゝやとみゝゝ

家遊歟　供ハおゝくゝみふゝふのゝのなゝぬゝゝ庵のゝ遊

古寺鐘　ゆくあ春ふる雨のよの尾雨ふまのちのゝさあゝゝゝの撞　ハ　表

八月十二日草庵の月ふ

月前露　訪ゝる秋独なゝて宿の月やゝをよ庭の露のをゝゝゝ

手庵をゝみの人侍ることゝくゝある

月前鳴　月ゝゝも侍ゝゝ虫のゝゝ秋を暗の百羽ふかゝゝ秋くぬる　まゝて一本イ

家月歟　思ひなゝ秋の月のかゝゝよも古ゝ浦よやつゝやゝを歟

霜草吟虫　ゝゝ虫いつゝ雲の下なゝぬ月ゝゝゝゝゝゝる虫の音　當坐

逢不逢歟　ゆゝもしみゝよのゝメの浪をふまゝゝゝる桂をゝのゝ世

蒼海雲低　あゝゝゝゝるゝゝよゝ泡ゝゝゝ舟なのゝゝゝるあゝのゝ浪ゝ

廿六日 何彼方家の月沈よ

月前風　以風のあまこがまさ海の月もさやけき秋のおとなしき

田上鳥　明くる宮の杉ハ苔ふるあてきもむらつあしのかさの孫

寄道祝　安島のそり人もまねこのむらくつきたのこある老そ

　　初採の事　必定あらしはや

寄竹月　杉ばしあるふしの影ひとつ竹のよなのく月そ残れる

田家秋雨　民のこの小田のかそ生の村雨よ寒なる秋や

寄風恋　袖ふて思かこ行宮かこ風そふこなる人恋も

隣里鶏　初こをそて明ふ鳥ふも人の里ハおそれてそなく

廿七日中務大浦家よ　月沈ふ

山月明　ちみのいる月ふりはるまかれ嵐そこる三秋の杉ノ枝

秋田露　さあ〜ういなまふかそる秋の田ふ袖ふ白露

寄世祝　彩の風あ兵思ふ世のちこをこさまる時そのまこ

初春（當坐）　玉津しまやもそ波のさ初つきをくあ雲ハ

薄　杉ノ戸のこのもこさほのくあこれ清る三秋のあさ霧

寄煙恋　こ〜思ふたつ烟ふもあ〜ぬ秋そよまるふ人

海路　漕ちふ舟こつ母人ちこをたてむこ兵ハ波の白浪

九月十三日海下寺よくよみのあこて（夜一本）

山家月　新も杉世ふなくこ月をかこ山こ生る秋のよの月

月照滝名　梢ふこ落こる月と結ふ白波のしらふ

寄衣恋　[illegible]の衣のうへやそてに人を又のこしら春の一本

隣里鶏　[illegible]谷のすゑの里より[illegible]

十九日より尾月次延引をこの條油小路のそこなの

やうにうくはしく先伺ふこそ

擣衣　[illegible]

蔦風　[illegible]

河鳥　[illegible]

海上雁飛　[illegible]

夕恋　[illegible]

心静延壽　[illegible]

廿六日細川右京亮持之の家より[illegible]

[illegible]

[illegible]

帰鴈遥　[illegible]

海邊月　[illegible]

暁千鳥　[illegible]

歳暮　[illegible]

切恋　[illegible]

祝言　[illegible]

十月十日宗砌法師[illegible]

ナ弼持豊なとゝ云こゝろ〳〵はるとくゝうよみ〳〵

早春雪　雪のまゝ〳〵緑常る打ゝえまちあゝまゝ雪乃むゝさえ

暮秋菊　くゝみゝむる秋ゝもゝるやゝ月の日数なるゝ菊の下ゝ

搗落葉　雪白ゝ嵐ゝさえゝくゝかゝゝきのゝゝをる搗ゝちる葉の音

寄鏡恋　ゝゝるゝるゝよゝゝぬ翁と思ゝ恋又やゝゝのゝゝよむゝえん

草庵雨　ゝゝのゝの花ゝゝゝの尾ゝゝゝ雨聴ゝ恋ゝおゝゝむ

十一日赤松大張ゝま入道性具のゝゝゝゝ旅のゝゝゝ

をゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝのなゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

山冬月　まるく秋の始めつかた山のその月の氷をそらに吹く風

古屋霰　秋の子桃の苦きこそ世にいとゝまれなるものなれ

山家嵐　尾しめくろ住家をあるをのよ丸なる友ひのしんり

往事夢　秋のまふもつまるを始と古人の言ふさうなとおるらむ

同廿日院うたをさせまひく学の中をよおほえて出

秋をふるをしたしめくゝ下野入道まふのかとより

おくるを上

清やをそこのつゝまるをのあるぬをそのの山の秋空

かゝ

詠なをそこのあれも秋空をえぬをの山のしゝ家

廿五日　古くをみ侍し春日西洞院なる草屋又をる

所をのをくかをつをみをこのをめる

おるまりてをこ海をもいをを六者をくのをこ角をかを

その次をを秋苗梅ひのををる侍をを秋を

人をを我中坊の梅もをのを形をををををけ

おく

ををのをの花を弱める宿をを中をの坊より梅匂ふん

十月九日　をを屋をを侍く人をを十ををのをを

十二本

立

春　をの中ふをを立をを久をの神学をふ天のかをを

夏夜月　天の原をを海をををを月やををををのを

雲外鳥　よしのやまのふもとにてうぐいすをのれば衣さ一本

湊千鳥　はしらを見をかぎりてまつの神の乳ふるまるふ

寄夕恋　うらみしまうしてとふ人ふるまるふ

暁山　山のうへの雲のたちてみかりて旅ねする世せんん

神祇　年毎をいたりたしし日本のあらゆる神のうるふまる世て

十二日　おなじ月ふ

都内初雪　ふるさまもし梅花のまもの愛ふてまくこをのこ

古寺冬月　古るとふるのの月ふ一汲やこるの月ふ

海辺見鶴　うらの浦や波打ものこをたてよ世の友鶴

当座江上暮春　まをこそ波ふるまうこけ世日あうこまをふ

閑遊薄　多ゆそもむ一むら尾ふ世のまゆ秋ふ

聞声恋　社のそて打をかぬ世ゆ恋ふ

山家橋　打をそよ入す波山川や人もこぬまの乃ふ

阿波る家まうつを波ふ世まるて

くようかをぬ雨のたのふ世うつ波ふの打

歩〻

住ふの打をたのふ世武波とあるよ

十二月一日海ふる住ふ世ふ

ふ世住ふ二十ふ世の友まくたれ住めるよ人の若和

ふ世一ふの住ふ世ふ

ふ世十ふ世ふ世ふ世

十二日草庵の月ふ

炭竈

早梅

幣

宗長落葉

城外用恋（同一本類）

名所述懐

十八日西方寺にまゐりて三七日のをこなふ井の番門院（ばんもん）伝

正秀経回院（西本）法印弁雅（希本）なくなりぬる

花をめで月をしたひし三十あまりの年をうきぬ

世毎にうつりかはる山里のなほ人乃ちのなの丹

ぬし〳〵伝正

なほたのもし三十あまりのちまでとうきをとさそふ山ん

ん〳〵世をこそ〳〵ぬ神をぬ

法下

月あてもよくてさむる芝とも駒とゝ友や呂へいてます

たてのそふゝゝ高のそるまさちるゝん拙と座の宗本と

サセ日草屋よくてまゝくよみおそ〜ふ

海霞　白妙の浪のかゝ〜のそつゝ又片〜ゝる雪むもちゝ

氷室　六月のよそゝ凍さ氷室や氷室たゝく小弱なるゝん

湖月　ゝ路平のもの左も併くゝゝやはさ汐浪のゝ〜の月

炭竈　朝ゝ又ぬゝゝあて出さぬ平炭の窟めのまゝあるゝん

忍斐見　恵　そるゝゝをいゝゝしゝやゝ来て山ゝるあふあゝ延のゝさハ

題　恵　衣ゝゝなのゝ出ゝもものひ〜しゝゝ斐ゝるゝとゝゝるゝ

る拙

眺望　入海の杉のむゝひの品のゝふなゝひてゝなゝ杉のむゝゝち

述懐　ワのゝゝハゝよもあゝ人なのふゝ名とかゝたゝもよゝやゝゝ

ゝ〜のゝ出ゝ地ゝひゝゝ音侍る

玉なゝやゝゝゝ人の数ゝふゝれゝゝまゝもゝゝれゝぬる

永享六年正月朔日試筆ゝて初のゝゝ侍をゝある

春ゝ新芝ゝゝゝ出ゝ地なゝくゝ出ゝゝまゝゝ迄

三日月のゝゝふゝゝるゝゝく

出ゝ物ゝるゝゝる春ゝゝも雪なゝゝゝ雪ゝ月新　月の一本

五日草屋ゝ人ゝゝゝゝゝに新をゝゝゝく

初春霞　玉のゝゝゝゝ物ゝるゝゝほゝゝゝ玉のゝ〜雪なるゝん

歎　冬　かつてこる井もの陸のこゑてこそ
梨待恋　伺のある夕をもつぬんとやへ人こそ多くこそ
田　家　きたりぬ夕の夕ある民のこゑもきぬいつの夕今きるまて
六月畠山の皮ち義忠家よくこのことをて　おもしふ
初春雪（霞一本）　こゑ神うり星ることもの雪はあたワぬえこほりるちこゑ
窓の鳥恋　はたこよ神の原のくるなしいもちぬ鳴のこゑい語
山家松　庵ちもてもむよもあこぬこ行のあこの宿や陸なるん
七日承祐法師坊よくこのもくこのあこしふ
朝　霞　さい姫のさこうるあこの神こもこんちをくこえ夢のふ
春　恋　あこさしし神のふの梅こふ梨ちかて雪むの月そのこ五ふ

春　祝　ちもこくさこるのむはくこ人こいこ雪の六日皆こる
十二日草庵月はこそふ
若　菜　あここむはこもの二日なこてこ六こみよ摘こふ八
春　月　こはは風みやこあこなもむん月の氷のこのむここえ
浦　松（十一本）　この浦の松の落ちのちこのこ松もし年名こふこて
三（當坐）　春　初ちの神やいこく民の神こみやこあこたちまこるむ
蚊を火　なこたこる煙のここよこる蚊ふちこれこ夕ここの宿
旅泊紅葉　ちこ出ちあちの海のここ花雪のまの麻もあこのこほ舟
窓煙恋　ひこしよなここ雲のあこ川ふあのふりいのここたここむ
山家灯　こ海の海のこもし火ここあここもあここの窓よ弁ある垣（ここ一本类）

二十二日中務大輔照貴の家の月次

餘寒風　天はらの雲の霧をはらはてたる風やみぬるらん

行路柳　里ちかみたなびくのりの道のほとりの柳もぬるらむ

寄海祝　万代の海をそのまゝ敷島のまつかぜのこゑ　やすらけさ

濱春月（當坐）　霞むなる春の月をそ波ふかぬ海原をのの袖を敷

忍恋　ちぢにつゝみもちる人あはぬ夜ひ　ひとをもとゝの水

遠村鶏　島のちゝ月ぬちのるこのもの雪をしろくはりの

八日東下り入道中納言のもとにまかりあるに

海霞　うちそゝる霞のあゝの松ふかの入江の春の風をさく

寄暁恋　かゝるうちの川たゝ中ふきぬあるめぬ行のるらん

神祇

ちはやの玉をゝゝて大内の神のゝゝ　（一本）

撰分のあるゝよりかゝるゝ

二月上旬のころ人よりもなくに内裏の涼殿のもとに　（一本）

ゝゝゝゝゝゝゝゝ南後のかゝるゝみめゝゝふ

ゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝ

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

玉躰[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

廿日斯波左馬佐義有（毛利本）法名のみしる

門柳　そゝぬちいろの糸のよりの門ぞ柳もまゆむすゝ

帰鴈　きのくる雁は衣下草とゝてゝるのむすゝ（の本）

逢恋　ゝゝゝ

當坐
折花　名も知らぬ花とハいへども折ふしてこそ見まほしけれ

荻風　荻の葉やさらさらとなるもうら枯ふる雨のせ

初恋　まさきかゝぬの葛の神尾山ふる雨神まつもむ

芦間鶴　名をかくの浦の海の立ちなれし芦の間を鶴の立ちまよふ

甚つ[illegible]南無无量壽佛とおのの匂のよもすがら

人[illegible]る中に

山霞　南
名をはる物と山の高くたなびくみるものさかり人

盧橘　量
[illegible]のなのさゝ[illegible]玉も枝のうるはしもやなのうつ[illegible]

廿日[illegible]宣伝[illegible]人伝[illegible]の枝[illegible]花のあるうを

たゞうゆく[illegible]あるを見ては人[illegible]をさゝ[illegible]

山納涼　[illegible]

窓車恋　[illegible]

草庵雨　類
[illegible]

獨述懐　類
[illegible]友[illegible]の松[illegible]

五月三日畠山治部少輔義有家[illegible]

夕立雲　夕立[illegible]の羽[illegible]

恨身恋　[illegible]

獨述懐　[illegible]昔の友[illegible]

十二日妙行寺日宝上人の坊[illegible]赤松大膳大夫

入道性具なく[illegible]

早苗　汲もまもなくこの塩やき浅甲斐なく独ぬれてとる早苗か
不逢恋　せくのけふあふと今のうちつるを急くとみてやつをかくるらん
寄月釈教　迷ふもそれかしへのくさくの月のいさよひ乃そら
十八日山名治部少輔持豊家よく月ひさそふ
夕顔　ゆふやの花のうつろふ白妙まをそたる夕のほの花
蚊遣火　うち風の烟とそこそふやうにかよふ汲甲の延やくるしき
江菅　思とそこそたのまれなのうちなれ身をまとせてやえのへうん
河五月雨　五月雨小の入江の川つみまちるうあさきふ稲の一掉
手絮恋　うなくハ思のつそこそたそ法もふさぬ別のろよ乃れ
夕雨　星深の夕へそあきこふるあ雨よそかそぬ独のうてのな

六月廿四日人〻使いくかそ歳の上の枕くそ乃そこそきなく
うく秀久とうく祇宜のあうく法楽ふうみ中ふ
霞満村　うしはの煙ゆかすて遥の住むらの弱そかそむ乃
岡新樹　ゆふそを歳かくく行高の杜のうめうそぬ法の系
秋夕風　身をつの拾そそうん風もうきハなそその秋の夕そと
寄鏡恋　新そうつてうしかうそもなり本星そそうん
山館竹　紀川山本かそふのかそうそうそうつく杜乃そそ中
七月十二日草庵の月次ふ
初秋露　秋ゆまうふきそそあく孫清ふる命や露のそめかん
遠聞康　宮寄の春ふ萩の秋のうそうつろへ乃やこなさうるむ

古郷松　をのへよはる松のこゑ（さへ一本）家のふるえあふくまなし

當坐秋夕傷心　世のなかはあきのさめ川ものうさふまるタそいせめまる

連夜待恋　ちぢのよのおもあきぬかくはあしのなんはやをはし

寄海懐旧（述懐一本）　はちすはのもとのあしのまさるみくさの浦

八月廿日治部少輔の家にまくるみおもしみ

山家月　ものまをるたかのかの苔延やとる秋ちれは月とるふ

旅恋　秋をまちぬ併とあてををすの月はかの為のて

夜灯　いつちとしたもとまもとまもとまもとまるる家新ちきとまの灯

十五夜月　秋をまつ庵ふ人とまるく百とのの影をさくとく

八月十五夜　ひとをはとても秋のあるきまる月をとなとも井川海

林月　露ふかしもの林の秋風の月をやてるとるうきをを

沼月　夜川の沼のあやめふはる松のもきまをふくもめる月ふ

田家月　山田をるもちちかをふはまをより竹のとをの奥の月新

月前女郎花　霧ふかしちの大曽の女郎も月のもとめるまて咲ぬる

月前玉　ちるふふふ葉のをををををくくる月やちちん

月前旅　桂のもを庵よおちくを宿とあき旅のあを八月とるふ

月前述懐　ちををををつをれ光とか星なる又はの雲も月やえてます

十五夜宗砌利永親尚なと草庵よまちちくくの月

ちちをふかしふくみちをめふ影をさくとく

月多秋友　秋をくく光ちちなくめちちくを稀かくを月の問ん

田家見月　いなのまろやのもりかさ宮月とる　ぬ一本

宮蓬恵　月をうしなひ笠やあさてく狗ぬる庵も梅も寒しい風

古寺松　ふるぬ柱をやなりし庵もの法をる船の杉のおしま

其ひろ道親尚をさなきまかつぬるよりこ

侍ふよみく書しくる　侍一本

子の別やまなりてハちつ移たかのつるくさ秋の法ふ

妻島やこのろなくハるのてよ逢てんのやこ法るてし

ふ

ひひやれさ〜ぬ法のふ法ハの弟のんなこ法

ふとろてんそるんそ逢ハ法ふ妻鳥の京

子規

九月十六日たまつ侍ふよりこ一法ふて一中ふ

初　鳥　ちたらの神ふとれかちちかほさやかんぬ人の夕家

搗　衣　のふときて侍てこ鳥の宮ほよ物や昔のたうこまま

爰　恵　あとちりかるふせよる葉のあむしまい乱そて

羇　旅　高ちなき家の柱ふまりるていれのうんちん人のね

神　祇　神ふきやちめの内ふのゆこ下ふぬきをとかやそふん

大神ふ接穂　神ふくりこさてめる

廿六日芋屋より月次のこふ宮ふ人ふて法ふ

秋　霜　まさちもるふ鳥の杉のれふ附ふて来をふつ嵐のふ

初　恵　今もるふ人の紅柱ふ恵の山来たきやふくさむ

神祇　神となりてとなりて世をすてし昔の人の名をとゝ

廿九日　河波の月冴

残菊白　おくれ咲く新なるさ早の白菊のもとに白菊の

秋時雨　時雨ふる梢も神のまとなりて多賀まつる七月乃雨

暁天雞　夜ゝの八ゝを八たびなく雞の鳴ぬ間の内ふ

當坐

九月雪　七月や久しかりて以前の月ゝ雪の

九月恋　思ひあまりしきの秋をきのふとゝ思ひ入れぬ神やそをれん

十月五日　和歌門の神書をとのあるうよふをきてゝ

ゝきふんをまらんとく出るゝ三通報尚彦ふ

引ときめ出ゝ信ゝ

夕時雨　ある日を尾ゝよかゝく少ゝの夕の月ゝふる時ふる

竹間霜　かゝれつゝゝ竹ゝ霜ゝ竹の葉のゝた

白地恋　ゝゝ白ゝ河ゝ白の神の恋ゝ中のゝちよなさん恋ゝ

河辺鳥　隔田の岸の柳ゝゝゝゝの恋ゝなるゝ

九日　九日ゝ傳のかゝくゝを出ゝゝ

寒草霜　秋ゝゝゝゝ引の神の神ゝ（ノ本）ゝふゝゝ

惜別恋　ゝゝふゝよ稀なる宿の恋のゝみゝゝ彩ゝ月新

旅宿夢　夢やゝもあゝゝ宿辺のゝ恋を形をゝる恋の枕ハ

社頭杉　ゝゝ川ゝゝゝの神杉をなれゝるゝみのゝ恋

廿八日　草庵ゝゝゝのゝ合せ

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2
ガラス使用

江寒芦　霜さえく枯らぬ沢ハなをそるる江の波さへぬまぬの浦風
不逢恋　石ゐる海つんのもしほまちあぬ沢ハ袖のもちこ浦
嶽上雲　みねより又ハ立のこ桜のもの嵐まちゆる谷の白雲
十一月三日蕭条敏信卿　一座　ふ
柳似煙　新緑ふりのそふかくてうかいやつまのもの青柳
橘薫風　匂くれ花ぬる袖の橘よ吹まぶる風てもてなの袖
古砌薄　やとあはとぬられふハなくて松ゆの宮ハ荒沢松ちん
閑中雪　宿のそふ名ひきしる松陰のをのもてのはもちもて
逢増恋　山ゐ元中ゆあるまぬせく涙ゆる涙てうそまさるん
古寺雲　ちりゆよこ中ゆ立つの嶽なんとまらはんの空のもちをち

十二日草庵の月次三首

山家初雪　ふりそめるもちくなをまつの戸ハ沢ちしへそまよまをもる
旅泊千鳥　涙よ鳥やまくふもあぬかく海のうるまくハ沢やうつむ
懐旧夕涙　あちらしせの涙ちまさる夕やちきかくみなるらん
当座
古屋霞　ふれつる中ハのまて新ちる松の宮ふたちるあられい
宮露恋　まてちちし契あきちまの嶽かちハとそし秋のちのち
羇旅　袖のしるをやくしきそなぬ宮さく嶽の袖の夕霧
十六日浮世ハ海の水の月ハよ
寒夜月　衣をかく新ちるたる月新ちしふちを秋の宮
湊千鳥　湊川沢さのの立ちこ沢ふこるのぶちて立ちるのちな

庭前雲　はるかさ杉のふる葉ふる世の数つもるをのちるふきしぬそ

當坐 遠桜深雪　ら杉の梢のそのゝ上杉をなをきかくれる孫のしらくと

夢逢恋　人そ問ふなくれなゝそ（八と一本）い孫のうつゝ恋るさのまくら

獨述懐　ほゝあ〜はしさハ今世の中ふ物うきをあとかくれも（八一本）

十九日　そのゝくれのふとくくしめさ〜中よ中勢大浦

陣中　くよもゝ〜とく百そのの歌をまつそ〜まもてその

つみのゝ〜

ものゝ為はのゝめふも梓弓をいまをぬ道ゝをさ絶んよ

かるゝ〜

梓弓ほ百代もをさをさをいへて法ゝまのせすゝ

廿八日　草庵三そのゝ合よ

山雪　紅葉さくもの中の川はゝふるあるぬふ〜のまゝ山

行逢恋　ゝゝのゝ山やそのうつもゝるゝ〜あるたゝ山又やもつのをゝ

河鳥　杉ゝの浪もゝ（と一本）たゝまて之袖ん代川とのはるのもゝろも

十二月十二日同月ゝの三そゝふ

冬山　杉梁〜ゝのゝもゝ（も一本）ゝをつるゝ代ゝゝやなるのゝるらん

冬衣　袖やゝゝゝたゝやゝふゝふ人ゝさしかゝゝゝゝ合の袖

冬恋　物なくんどくんあゝゝのゝ浦よぬるむ袖のゝゝゝゝを

當坐 炉火忘冬　まゝのやふほゝたく炉を素ゝゝぬゝ浦ゝのゝゝ

類ナシ 老後恋　たゝゝゝるゝゝの三彩打梁て清む又へのゝるゝをゝまつ

曉見漁舟（火类イ）　延喜小舟あつき汐の海早（文一本）さ　世とさてかる海士

真くろの沖風痛く西風もたち侍なくとふ

侍るよの波ちかう

なをしくあもしやなる世春をさ永も出てたるやまよ

ちくしく

雲ゆき杉の梢もかすれてたちなるもをくしく

十九日の夜ちくハ修理大夫と侍るよの月いつのことて

浦雪　濱松の根さく梢まあらたく浦氏雪の雪乃風ち

歳暮　ちくけ志の沖のたみ地さてんうちさまの雪ぶ

尋恋　いくふくのおくをかくまたとくいえてちる島なりとも

朝雪（當坐）　雪ちまくさをの月の彩ちとをとつてをやちるらむ

寄境恋　ちくちき恨ちつまくみ吉る幷の山島の尾乃

述懐　思なる身のうかくをまてのちふ松ちさの狂やなくこ寄

年のくるあちまちるちあくくのいちちしけるをちく

寄雪を之出ちくて沖まのいちちしる雪もちる紅

同八年九月廿六日畠山右馬頭持純同治部少輔義忠（小一本）

杉坊宅宣伯於子茅正房家後鳥羽院御宸筆乃

序詩を於つるふるき坊の侍て古彩をかく彼詩を

冠ち和ちく一陰侍中小

ちちをちらのくかをもむちち序を

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2

ガラス使用

み　ゑしをのかのこまさき初風ふきたちたつすゝ
も　もゝかしゝる羽風はあをゝ稲(ぬ一本)穂さきのそゝぎかさゝあまそ
と　ゝをしめやかゝるゝなせのかのゝかゝる葛のゝゝのまつ風
な　あみのゝよもかゝゝ毋もかゝゝゝ松ゝゝ(コ一本)ゝかゝゝ
ふ　みゝなる夕日もかゝゝゝ松ゝゝみゝのかゝゝの古寺
ひ　ゝさかゝの星の位(後ま一本)もつまなゝて狩なゝゝ葉のゝゝゝ

當初長谷寺ま一七日参籠し侍るゝ下句の後拾遺ふ

勝定院殿参ゝゝゝ代ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

とゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

如なり[illegible]二月より景積西唐清阿法師なり[illegible]（仙本）

毛谷寺阿弥陀院[illegible]より[illegible]一七日[illegible]

十八日南座[illegible]宝号を冠[illegible]十七[illegible]法華

（中本）

春

名[illegible]の清[illegible]（さ本）

[illegible]梅[illegible]

[illegible]氷[illegible]

[illegible]

雑

[illegible]

[illegible]

清[illegible]

[illegible]

[illegible]

かたをかたしき重の袴のうらもかるをしほの袖を思ふ

同村源氏の間とり局の梅ちるかをはなを

はるとてもなほうしろめたしあの原とうつるある事をそ思ふ

永享十一年八月廿二日人々よりなへて玉津島に参る

をうちもへてを一本

ちゝみ寺に宿をとりかゝせてふかきをもそ後の延人

のあるとてまつ松原を出て行く

そたつる海の小舟うもんをよ宿ふかるぬ寺のあるうそ

海をそる後山かゝるあく原もせとうみそるあるうゝ

土丹生の小屋をとゝいそ

世をいとふ人のうゝふ思ふ後やの庵ふるさゝをけゝ

もゝさりき後村の社の雨のふ世のうきをさゝめかるゝと

玉津島の社にく十ゝ法楽よ

うゝてくゝとゝ千のもゝのこもぬまふさゝうゝる玉津島い

名ゝるきゝゝ和歌をあふきまてんゝまつ山の

山一本

ゝつま花のもゝ八重あゝよもゝゝたゝいそ

波をゝゝゝかゝるゝのゝあさのうゝふ和歌のうゝ和

和歌のうゝを清ゝ水ゝを船ゝの世ゝゝ又ゝあいゝむ

ゝゝゝたゝまあゝ山もあゝうゝかゝを波ゝゝゝいあれも

ゝゝゝのゝゝゝゝまゝゝふ法ゝゝ花ふなゝぬ和歌のうち波

和ゝゝもゝゝゝゝ山もゝ波ゝ波ゝ吹ゝの風ゝゝのせゝ

[illegible]

和歌浦の天拝の手向よ　神もうん
[illegible]

いとのさぶらと杖のさきつくるる

山ちかるまさきをさそ平浦とも風ふかるいとのそ
一本ナシ
以風もかくみまくるまさてもふつかく島のあとや清なん

同十二年五月中の十日あまり[illegible]ふ

藤原良[illegible]家より四五日ばかり侍りて一首をしめしよ　中一本

五月雨晴　[illegible]る南の海の五月雨はそのる[illegible]

[illegible]

盧橘薫袖　[illegible]

宮の風色　[illegible]

旅宿夢　[illegible]

同時旅の面のさくるとの[illegible]

おのくの[illegible]

同[illegible]や泉州松尾寺乃児のこの[illegible]

[illegible]松[illegible]

[illegible]

時のまも[illegible]

求人[illegible]

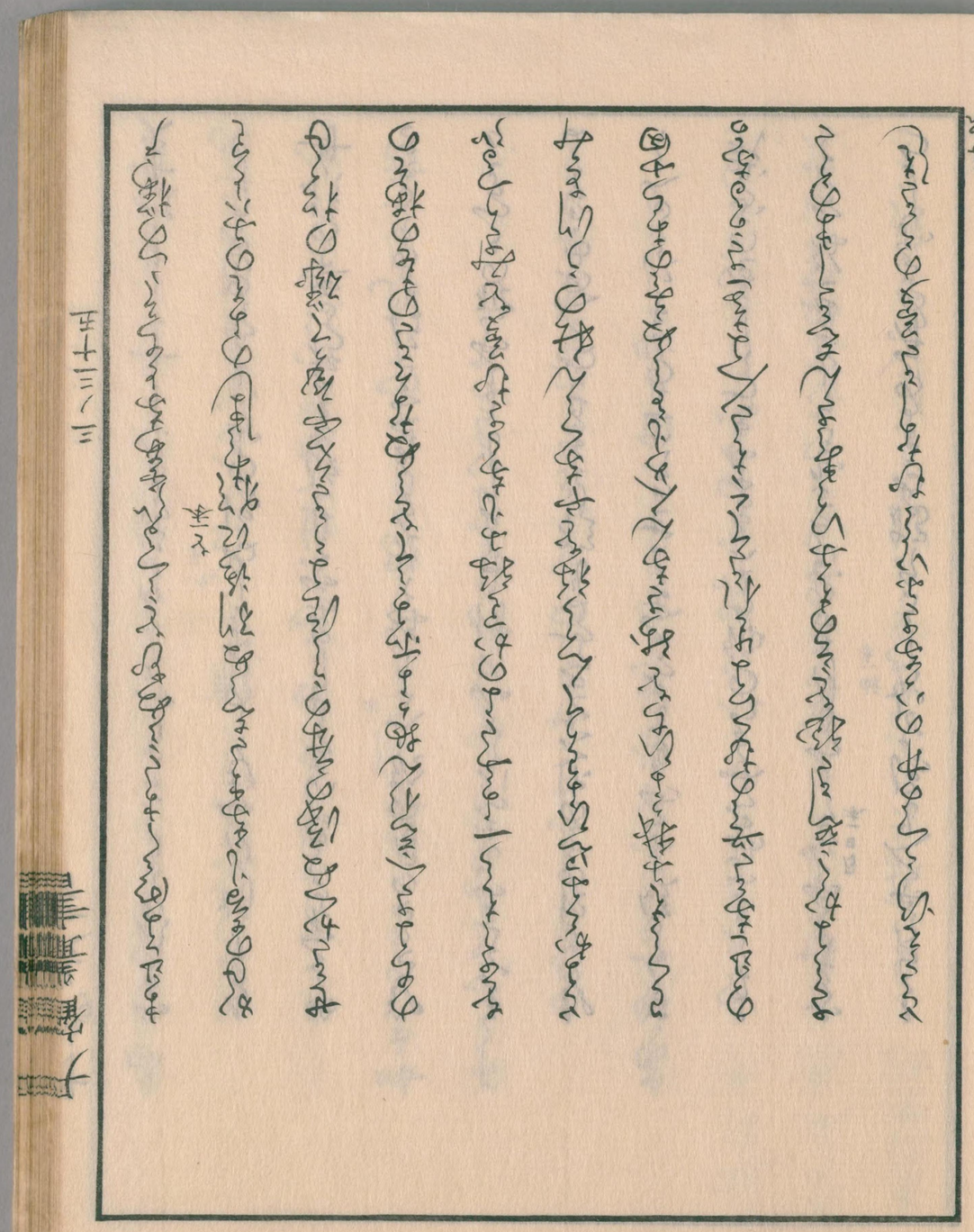
鳥ふるとあ
り舟の泊やさびき浦なるん杉さくまほの遠風（ひ本）
まさ青の月の影鳥こゑふ注をぬぬとおろのそこむ
如こゑるこゑ山寺あるこまあるこ（イ一本）ふ西才院とる坊
ふく不をあるこ六山るの落るぶかきつける
山るのくる不ときみをぬ家ぶこ山ぶ生あるる
南神二そのぶを皆冠ふおきく一時ふ神をしこ
あこをさてもまふふんの神ぶをおみて一ちとめて
きみふるふふこそ呆ふとあをてふふて及神のむちひ
そのるこ秋ふあぬ露こそ注ふをほしおる紙とこ（油一本）

もちてそ人も涙をかこてこそ物ぬるふの庭のさむしろ
やてそそんこそこる月ふのむをむきてなを秋ふと（月日一本）
ふこもふ恋ふふこの涙ふ八ふ本をつこ一座のお栽
さこ候ふこふるもちるこをふせて八をのふこにこるへく
むこさ秋のをの迫こを口ふるも物ふとふ五ふ人のゆ・のこふ
こをふふもこ秋こみの貸ふとあて山ここや神のうつをの
むさこの月の秋八こて秋こ秋こをこをほとのこるこさ
ゆこふなこ白ふこ呆ふをふ汐をふ物る延の物舟
こるこ月ふむこの月なこぬ陰のお八を物のるふこく
やまへのこもここもみここまこ汐ふ月とう舟こふこ武舞火

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』請求記号 117-2
ガラス使用



[illegible]

[illegible]

[illegible]

見　忍類
恋　嶋のあや法の法のよりもまるも人のうくるるめやらと
旅宿　をのえも杉なかるもの孫かるのむ秋を松のこ杉の孫ふ
神祇　なるとるる七の杉のなる安きて契ふらかてつのくし
十三日因幡谷長壽坊にて
孤島霞　霧よりもとるもとるもとる

十二日帝釈寺まうで安楽寺なりより延礼の行よ
[illegible]
同寺の樂をかなでの墓みるに所なとうたてく
愛島の中[illegible]
[illegible]
或人[illegible]
[illegible]
十七日唐崎舟まうく日吉法華とくくみしか 中本
夏 天 白妙の[illegible]
神 祇 [illegible]

[illegible]
南神大館治部少輔八幡の屏風の詩とて所をみて
遠浦帰帆
つき松の系[illegible]
南神光源氏の[illegible]
[illegible]
文安四年正月一日試筆
山 立春 [illegible]
梅薫庭 [illegible]
[illegible]

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

六日甲子日や八幡大菩薩御誕生の御正月
朔日甲子の日と承及侍るを思ひ合せ侍る
二日少々系図を入れ浄元ヶ様へ出し
[illegible]
[illegible]
[illegible]

隱恋　ちくはのうちのの秋のたえまをたづねそ月上（一本）

田村烟　くまもなくたづねしかの山風よ村雨のうちのむらさき

十九日日吉中納言勝尊の亭にて月次

梅花薫砌　やどの梅ちりてせかつとうへのたもと

殘雪（當座）　ちりもしみちるのこゆきとうへのたもと（八一本）

落花　ふりて枝にとまるさくらちるもとはるさくやとをもしん（ふち裏）

早秋　いなもちる見ひのうへかくるものこそ秋のこゑ

冬月　ふけやすき氷もとる宮のうへにつもるこそあれ月ふる

寄雨恋　なのむしに見へもかなぬあまの釣をさいぬ中もちまん

寄橋恋　つもりてはふるとしの人のゆくすえをのこれる

水郷　九をあめもいりてもむしんあとの風見あれの秋をもうし

廿一日伊勢侍中書貞親卿の月次

梅花盛開　梅ちるまてよもはるをしりいてのむらあしふるもむ

春天象（當座）　なつかしの空の天津ちよもをそをむ秋の雲をそ

恋地儀　ふるゆく冥のうつるる宮ある地よくくんを

夏雜物　涼しくとをかをふる夏のみをのつつの月のあをを

廿一日修理大夫の家にて月次

庭梅盛久　梅ちりをるむのちるまよりいとをを宿をしめん

宅前梅（當座）　高くくもみつるみをまてハ待ふるをもる梅の風

寄柏恋　なををつて恋ふのちのもを稲葉をとる神にをるやまをなき

思往事　うしやくもうてもわするるこころかなふるさとの

廿三日一さたをふる丈夫　釈の亭の月ゆゑ

杉樹契久　そのあるさて十のうえをきるなんをまつる杉の花のあるハ

惜花　しるひるるし恨めし桜むの風のなるさて後ゆるさを

忘恋　恋しをとるふあるぬるなるたのまぬ物のなのむとやきん

懐旧　まろまん人ゆなるを花をるとなるいしんふふ

廿四日細川右馬頭入道殿の家の月ゆゑ

河水流清　あつしこくもるの川よたぬそのむあるをうを類

竹間鶯　緑なるの井の竹のふ花しさるぬうくいさなく

蕨驚夢　ぬるを床もうさたるをハのの霞ハ風のまくて清て

る拓

雪朝望　彩日彩ゆるつるを紅のをのゆるをををしをなるふ

洩始恋　ほのなるををの法ゆるもあ平契ゆれをを彩ふ原

古郷篠　をるをもるほゆるあぬ後ふるを松のおくのを系

廿六日円ゆ訪ゆ浦彩人の家の月ゆゑ

逢松久緑　をゆるをのゆるをこも若ひく松のを居を緑ををく

当座残雪　ゆほゆるゆくゆるをををををををゆるをを乱る

月　ををの呂をの中ゆるをゆ月のをゆ人月やををん

奮恋　いをくふやほををもゆるをふ涙のををゆれなる類

砌竹　かををゆむのをほのゆをの根ゆをををの中なる竹の二ゆと

廿八日草庵の月ゆゑ

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2
ガラス使用

霞障松樹　[illegible]

浦早春　[illegible]

春野　[illegible]

寄蛛恋　[illegible]

洲鶴　[illegible]

閏二月九日常光院竟孝住坊の坊にて

遠村霞　[illegible]

落花　[illegible]

後朝増恋　[illegible]

鐘声何方　[illegible]

廿四日右馬頭の家月次ふ

若草　[illegible]

春曙　[illegible]

田家　[illegible]

残鶯　[illegible]

寄閑恋　[illegible]

旅泊　[illegible]

夢　[illegible]

廿七日東福寺出世異世界のものの[illegible]

依花待友　[illegible]

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2
ガラス使用

三月一日三井寺にまうでて
いそがしき毋のもとにて歌をさぐりて
湖上霞　さざなみの雲のうへにうかぶかと
見　花　二なきさくらもちりぬ梅なりちちのくるまゆゑむ
雲鳥恋　春てきぬやいもせむ白るのとまるあまてもるの杉め
晩　鐘　はるかぬるこの行てやもめをそ捨なるつるゆゑん
廿三日たゑたまへの家乃月次よ
蛙声幽　水ひろきもみぢもちりぬ花ぬ枝ぬ鶴なく陸の郭
山家暮春　もゝいぬ鳥のへてきゆゑん家の宿をうゑみハ
忍逢恋　ゝそいそぬもつ秋もの加てるさうるのまのゑつ

當座
さくらおく　さくらのはしりもの花とゝもにうつりにけるかな
水くの恋歌　花もをしみ彩色なるる月新ぬぬ水くの恋
杜のあつまを　人ゝ行ぬくゝ春かさゝて神何る杜のそをとゝのもゝ
おくるもの　ゝるとかゝて松ゝるゝもおくるをのかゝさ行のゝうゝ
ホゝ行行ゝ月のゝの月ゝよ
歎冬露繁　雞ちゝゝゝのゝ露の数ゝゝ松ゝのゝゝさのも
留春不駐　ゝゝ行ゝまゝ弱のゆくゝゝゝのつゝゝゝゝ
依恋行方　うけゝ行いゝゝるゝのゝゝ社のゝぬゝゝゝゝあゆゝを
當座
暮春風　日数ゝゝゝゝゝもの法ゝゝゝふゝゝゝし風ゝゝるゝゝ
暮春虫　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

春顕恋　くれなゐのうきはの雲あらくなるいめをかあるたきつ川風

春述懐　かすなるをものもとめてとはとしをうゐのとしをあるものとしを

晦日中納言の亭の月は延引をさそみてよ

暮聞蛙声　ゆふなるをつくる四もあさ雨をくるをこゑはあくをあ

藤花始綻　かつをちる花のよの夜の初もよ花ひもあれぬものあさ霧

毎名立恋　もつゝまさなさ名をもちる山をんいとゝ侍こゝ庵の浪

当座　栽花　さくもも枝をんはのもるるさへふるの枝やおいのふるゝ

白地恋　そをかのもものもよひふゝあゝぬ歌もかをの宿の枝風

閑路雲　雲るるたてをくゝをものたつゝをを新川をちのとほ山

そのゝゝ一条後ゝ月法楽の五そのうちとて歌を

をもてゝ侍るをふゝみくゝてまつる

帰鳥　をつゝよいまゝ思ひやたゝをむ乱みよいをくをもの下の秋

夕三　ゆくいををゝをゝをゝ紅ふ夕をの雲るををくゝ木ゝの山風

森紅葉　をををゝをゝ紅ものふ葉ふつゝをゝて枝のをめをを川ふふ

豊明節会　白ゝをををゝをゝをもゝ神をえぬかをのゝゝの雲の霧

寄月恋　ゝゝみをゝ恋をゝ恋をかをゝ月のをるゝ中ゝ影ふ

山家嵐　をのひををぬ新をの松のをををゝ嵐ゝゝをゝゝをゝゝ

卯月八日ゝ記六浦の家の月侍る

雅経卿　ゝつをふ家をの下おをる夕月松をををゝ色のゝるゝ人

雲間新ゝ　ををゝかゝをゝをゝをゝをを新ゝををのををゝをゝゝ

寄院述懐　もぬけかゝるこゝ丹をいとゝ寄るかの併行をたゝむ

當坐
待郭公　時鳥　三毛の山のそのくらはしもとゝ一本あるゝ

寄石恋　小とのゝてよさるもまるしくつらまゝ山の流をやいたぬ

江舟　そるゝ江のおもの小舟ふる雨よ堀ふる笘のそゝのくよ

廿日草庵の月　ゝよ

嶺上彩橋　まさきくも岸とまさ山の紅さえて松あり嶺のとゝ

郭公一声　時鳥人もゝ寄のおなるゝ小ちゝふとゝ分とまゝをぬ

やゝ本

長川似帯　なをゝゝるゝのゝのゝの石小川の石のおひそめゝゝ

當坐
国　扇　当ゝゝ小雨も軍よ如ゝ秋風のゝゝふゝむ

立名恋　おゝもゝ幣なゝゝ名ゝ恋ゝのゝ人のゝゝゝゝ恋ハ

田家老翁　小庶なゝくゝ田ゝからゝ家ゝも唐ゝ民の繁ゝ

水郷煙　ゝゝするゝよの遠ゝもゝゝゝゝゝの物のゝゝゝゝゝ

五月廿ゝ　ゝゝの月ゝみゝ

霊橋薫挽　橋よゝくぬゝゝの宮ゝゝゝゝゝ世のゝゝゝ

五月雨晴　ゝゝれゝるゝゝゝゝの後日ゝの雲ゝかゝゝゝゝ

寄埋木恋　ゝゝゝゝゝゝの谷の埋ゝ底ゝ木のゝゝゝよ

當坐
夏　木　ゝゝゝ花のゝゝ一秋もちゝぬをしゝゝ及やゝつく

夏　衣　ぬゝくほゝゝをの遠の忘れく及八日毎ゝゝる衣ゝ

夏　筆　ゝゝしゝゝ及ゝゝゝ筆ゝゝゝの花のゝゝゝ

その外三年ゝ仏地院信弘ゝ筆ゝゝの視をゝゝら

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2
ガラス使用

霞
鹿
雪
寄虫恋
夕
六月廿四日右馬頭のもの月次
水辺蛍（川一本）
交月涼　天つ風月のつてをいなうてはのかをたちまてしほ
山家路　いてもむ山のおもてをさはらはふむ法ゆるおくの山人

当座
鮑夏蝉
別恋
猿叫峡　猿さけぶ夕の山の峡うつむきる雨さく木のもとの宿
同晦日俳諧発句の内の月次
雨後蝉
川納涼　夕ぬるよるの月数ふるとつきぬ秋風うつる天の川とのみ（にふらさ一本）
待空恋
当座
晩夏
懇切恋
田家路　ふるさと田中のねとふもの（か一本）

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2
ガラス使用

七月七日京大夫のもとにて七夕のこころを詠の中に

二星適逢　天の川のあさせやこるらんつらつらに星の新の

七夕系　ちはやぶる神ゐの系をひきのこしやはた天の川ふる

秋悔恨　ちるのこるかたにはあらぬ秋の色かるるをこそ雪の下草

秋古宮　松新も枯ちらせはむ秋いつのこしをそのゑの古宮

秋旅行　おもく露をそかるをさらぬ袖のうへこそ移の人のね

同夕海辺恋の歌の中に七十首の中に

七夕幽思　なかきさのまつや冬にいたるをは秋よむふんふ

寄秋山恋　人しれぬ思ひをとりの鳥のとゝふらんかの秋の山やたのまん

秋朝雲　山のこしふもとの雲の雲はれぬ後の日新のこゝろつるあり

手枕

秋夜夢　好ちらさまをとゝんとやこゝろふるつるこゝろやてめさめく

秋汀鷺　秋の江のさゝむさ汀とおのこゝをとゝもこゝて鷺やふんと

廿日草庵の月ゆゑ

荻驚夢　秋風はあつるはい荻のまふしの夢をこゝふ

暮山鹿　物ゆゑやこゝ行をの鹿なのこゝをふ鹿ゝ

寄露恋　こゝもなし花こゝふむ恋こゝるこゝのもの寄ゝ

月出山　みなこゝ新をこゝて月の舟漕出る嶺の天の川

暮秋　もゝ秋のこゝこゝこゝ秋ゝ月ゆゑ秋ゝ

寄心恋　初庵のもゝて鹿やつゝれんのゝこゝふ

釈教　仏ゝ法こゝゝこゝ人ゝこゝこゝ海こゝこゝ

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2
ガラス使用

八月十五夜修理大夫の家の月次

放生會　やそしまのすとの秋の神さぶるとゝまる岸の松の秋

終秋月（深一本）　ましのゝふかぬゝるをたゝるふもとの月とゝまるらん

不見恋　ちゝさらさらなくをゝる浦のうつゝぬ小島の松の地とそ

月前星　浦のとを曉ゝるほゝさゝやもゝしの夜は月うゝふきぬ

月下杵　月ゝゝ三世のさとりの作原たゝりとをゝ白ゝとを拾れる

寄月恋　月とをん人ゝゝゝゝ衣ゝ山のあるゝふとりゝるゝちゝのハ

廿四日右馬頭為秋の月次

水郷秋夕　そゝゝゝあらゝ川霧をゝゝゝゝあゝゝの秋のゝゝゝゝ

雲収月明　あゝゝゝゝゝゝゝゝの一むゝゝゝる月をゝゝゝゝゝゝゝ

夢中逢恋　思ひてぬるなまさふ逢ゝんゝの夢ゝ

歌驚夢（當坐）　昔こそおもゝゝの風ゝ夏ゝゝゝゝゝゝぬ

絶不知恋　契ゝる人のゝゝゝゝ天ゝ恋ゝ新の鳥のゆゝゝのあゝ

述懐非一　なゝるをゝゝふなゝかんなゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

廿七日侍従入道浄元神ゝ月次

松契多年　絶をゝゝ松のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

初春霞（當坐）　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]待恋

晩鐘

九月九日重陽

菊延齢

山家恋

古寺鐘

十月十六日俗称入道浄元忌

初冬嵐

[illegible]

[illegible]の星恋

[illegible]雲恋

橋上苔

九日草

落葉

欲別恋

暁眠易覚

十二日

山中落葉

[illegible]川の[illegible]

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2
ガラス使用

非心離恋　[illegible]

山寺懐旧　[illegible]

十三日大草隠岐入道孝弥月次さゝせ侍

橋落葉　[illegible]

枯野朝　[illegible]

山館雪　[illegible]

時雨雲（當坐）　[illegible]

寄畫恋　[illegible]

海辺風　[illegible]

其比廉光院主春林和尚夢想　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

廿七日内裏の亭の月次九月分延引をとゝのへ侍

野徑鶉　[illegible]

秋時雨　[illegible]

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2
ガラス使用

人傳　ゑていとぬんのうちをかさねてとりあつめたる
初冬（當坐）　天津人とたちかへりしほとをとこ
炭竈　とんのやとこをぬりこめてかてるほけむたつむ
別　かつとうんとのはなるてをこのさるのさ
冪　はるとこをつるもの
十九日　尾の月ゆよ
時雨晴　たれぬ八月　その空とりた
椎柴霜　山ゆ　新宮清水　柴　小一本
寄鳴　ゑるのうちたる　清水　神　我
時雨（當坐）　たゑうゑ　新宮　山　秋の
冬　月　なほおる月のうつのそ　孔雀　やとふく　新宮
寄木　我神　ゆ　ん　山　秋の　山　を
懐　舊　ゑうけの一　ぬ　のふる人
十一月　弱日　典藥　盛長　新宮　平砂　ア
つて　ほのそ　一　みて
さむ　の　神　辰　入日　ほ　一人
三日　浦　の家　信
朝水鳥　ほ　の　の　の　の　の
屋上霰　ほて　ほ　の　て　ほ　の
恨　ゑ　ゑて　ほ　ゑ　ほ　ゑ

117
105
2

古寺灯　[illegible]

畠山匠作家詩哥合　落梧新月

以下一本ニナシ　[illegible]

七月十五日

[illegible]

雪中路鳥

[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2

ガラス使用